

藤樹人間学塾： 藤樹思想を学び考え実践する

塾長 田中 清行

「藤樹人間学塾」では、藤樹先生の著書を中心に思想を学ぶとともに、時事問題と組み合わせることで議論しながら考えを深め、日々の生活の場で実践することを目的に毎月開催しています。本稿ではその模様をお伝えいたします。

■ 九月、第百二十九回人間学塾の参加者は七名の参加でした。

● テキスト

中江藤樹著『鑑草』の第三巻序、第一話、第二話

● 今日のポイント

嫉妬するのは自己中心的で、嫉妬を超越するのは利他の心があるとも考えられる。利他を実践された稲盛和夫氏の言葉から全員で考える。

● フリートークキング

・「私なら夫が浮気をしたらその理由を話し合っただけ原因を掴み、対処する。稲盛さんの話は真理で素晴らしい」

・「男が相手の男に嫉妬することもあり、また仕事上での嫉妬もある。他方で嫉妬される場合もある。いろいろなことを考えられて有意義だった」

■ 十月、第百三十回人間学塾の参

加者は大阪、京都から参加の方を入れて十名でした。

● テキスト

中江藤樹著『鑑草』の第三巻の第三話、第四話、第五話。

● 今日のポイント

・徳による政治は、洋の東西を問わず国民から広く深く支持され長く続く。

・嫉妬は三毒（貪瞋痴）の瞋（怒り）の一つで危ない性格。がんばって相手の幸福を喜ぶようにするしかない。

● フリートークキング

・「ヨガの研究で三毒により身体が病気になることが科学的に証明されつつある」

・「人は何のために生まれてきたのか。半ばは自分の幸せのために、半ばは他人の幸せのために、



を目指している」

・『鑑草』は、『中庸解』と全く違うが「人を見て法を説く」藤樹先生の思考の深さに感銘を受けた」塾の後、場所を変えて六人で楽しい懇親会を行いました。

■ 十一月、第百三十一回人間学塾の参加者は大阪からの参加の方を入れて八名でした。

● テキスト

中江藤樹著『鑑草』の第三巻の第六話、第八話。

● 今日のポイント

・嫉妬も怒り。他の良いところを認めたくない気持ち。怒りが生じると喜びを失う。

・怒りをなくすには、「私が怒っている」ではなく、「私に怒りがある」というように、怒りを客観視する。

・天地いっばいに生かされているご恩返しとして、精一杯のことをしよう。

● フリートークキング

・「日本人の農耕民族の良さが近年の個人主義の高まりによって壊されるのを危惧する」

・「自分を客観視することや同事は難しいが挑戦する意味があるし挑戦したい」

■ 十二月、百三十二回人間学塾は大阪、京都からの参加の方を入れて五名でした。

● テキスト

中江藤樹著『鑑草』の第三巻不嫉妬毒報の第九話、総評

● 今日のポイント

・怒りが生まれた瞬間、からだに猛毒が入ってしまう。怒る人は病気になるって治らない。怒りが生まれたら、怒りがある自分を観察すると怒りが収まる。

・見返りも期待せず、ボランティアで他人を助けることに、時間やエネルギーを費やす人たちに、ストレスや憂鬱に苦しむ率が高まるかに少ないらしい。したがって長寿を得られる。

● フリートークキング

・「怒りを収める方法としては深呼吸することは知っていたが、新しい気づきがあった」

・「見返りを期待せずボランティアをするという話は、中桐万里子さんのテイク・アンド・ギブの話とつながった」

等の意見をいただきました。ありがとうございます。

人間学に関心のある方は是非お越しください。

藤樹人間学塾 今後の予定

一月四日（土）、三月四日（土）、

四月八日（土）、五月十三日（土）

■ 時間（原則） 十五時～十七時

■ 場所（原則） 安曇川公民館